

大戸川ダム計画に関する 調査検討の説明状況

平成16年7月18日
大戸川ダム工事事務所

大戸川ダム計画に関する調査検討の説明状況

| 項 目 | これまで | 今回 | 次回以降 | 流域委員会・一般住民からの意見 | 記載箇所 |
|--|------|----|------|--|-------------------------------------|
| 1)代替案に関して、さらに詳細な検討を行う。 | - | - | - | | |
| 1)-1 琵琶湖の振り替え補給の検討 | | | | 琵琶湖水位抑制に対する瀬田川洗堰操作による方法と大戸川ダムによる方法の優位性比較を行う。 大戸川ダムは、1.大戸川筋および下流部の治水、2.土砂災害の防除、3.琵琶湖の急激な水位低下の抑制の三つでつくってはどうか | 意見書 円卓会議 |
| 1)-2 日吉ダムの治水機能強化対策の検討 | | | | 3)に別途記述 | |
| 1)-3 治水効果の検討[1)-2を除く] | | | | 超過洪水(計画高水を超える洪水)に対してどのように対応するか。 洪水や濁水の異常気象に対応できるのは我が国ではダムのみ ダムが永遠にその機能を果たすわけではない。よって代替案も含めて検討を 昭和28年8月出水のときに400万m3の土砂が出たので、治水ダムの代わりに土砂ダムをつくる 大雨のときなどにはダムの代わりに高水敷を低くして水の保留地にする 大戸川ダムは、1.大戸川筋および下流部の治水、2.土砂災害の防除、3.琵琶湖の急激な水位低下の抑制の三つでつくってはどうか | 意見書 円卓会議 円卓会議 円卓会議 円卓会議 |
| 大戸川下流域の治水効果の検討 | | | | 一定の有効性が認められるものの、堤防強化と流域対応を併用すれば、ダムによる被害軽減と同程度の効果が得られる可能性がある。 大戸川ダムにより、大戸川下流域、および瀬田川・宇治川の洪水による被害はどの程度軽減されるか。 大戸川下流域の洪水対策として、大戸川ダムによる方法と堤防強化による方法との比較・検討を行う。 | 意見書 意見書 意見書 |
| 下流部(宇治川・淀川)の治水効果の検討 | | | | 洪水時の水位を低下させる効果はあるものの、それがどの程度、被害軽減に結びつくかが不明確である。 大戸川ダムにより、大戸川下流域、および瀬田川・宇治川の洪水による被害はどの程度 軽減されるか。 天ヶ瀬ダムの残流域、集水区域の洪水調節は大戸川ダムがあって初めて可能 | 意見書 意見書 円卓会議 |
| 瀬田川・琵琶湖の治水効果の検討 | | | | 大戸川ダムにより、大戸川下流域、および瀬田川・宇治川の洪水による被害はどの程度軽減されるか。 | 意見書 |
| 貯水池末端の堆砂の影響 | | | | また、大戸川は土砂の供給量が多く、ダムの堆砂により、上流部で新たな洪水災害が発生する可能性がある。 大戸川ダムの堆砂による上流での浸水被害の可能性について検討する。 貯水池上流端から上流部にかけては二次災害の可能性があるので、明確なダムの位置づけを | 意見書 意見書 円卓会議 |
| 2)琵琶湖の水位低下抑制のための大戸川ダムからの放流による効果と、その自然環境に及ぼす影響について、さらに詳細な調査検討を行う。 | - | - | - | | |
| 2)-1 琵琶湖環境全般について課題の整理 | - | - | - | | |
| 課題と改善策の検討 | | | | | |
| 改善策の効果予測の検討及び総合評価 | | | | | |
| 2)-2 琵琶湖の水陸移行帯における調査 | - | - | - | | |
| 過去における水陸移行帯での生物調査 | | | | | |
| コイ科魚類の産卵・成育実態調査 | | | | | |
| その他の生物の調査 | | | | | |
| 2)-3 大戸川ダムによる振り替え補給の効果の検討 | - | - | - | | |
| 異常濁水時の効果の検討 | | | | | |

大戸川ダム計画に関する調査検討の説明状況

| 項 目 | これまで | 今回 | 次回以降 | 流域委員会・一般住民からの意見 | 記載箇所 |
|--|------|----|------|--|--|
| 琵琶湖の水位低下を抑制することによる効果の検討 | | | | 抑制効果は認められるものの、それが琵琶湖の自然環境にどの程度の改善をもたらすかが不明であり、必ずしも有効とはいえない。 琵琶湖の自然環境改善のために大戸川ダム周辺の自然環境悪化がなぜ許されるか、大戸川ダムによる琵琶湖水位の急速な低下の抑制により琵琶湖の自然環境はどの程度改善されるか。 琵琶湖の水位の長期低下抑制により自然環境はどの程度改善されるか。 大戸川ダムからの放流による琵琶湖の環境改善への効果と大戸川ダムを建設することによって大戸川やその周辺環境に及ぼす影響を対比したとき、大戸川ダム建設の必要性が真に成立するか危惧する内容と受け止めています。 琵琶湖の急速な水位低下の抑制は、大戸川が直接琵琶湖に流入していないことからすればよい 目的 | 意見書 意見書 意見書 意見書 自治体意見 円卓会議 |
| ・補給可能量、補給時期の検討 | | | | 大戸川ダムによる琵琶湖水位の長期低下抑制をどのようにするか(振替補給時期・補給量)。 琵琶湖の水位の長期低下抑制のための補給可能水量が大戸川ダムにあるか(大濁水時)。 琵琶湖の長期水位低下を抑制しても、日吉ダムの振替利水をする補給可能水量が大戸川ダムにあるか。 降雨があって水位が上がったときに10日間水位を維持する時に、下流に水を補給するためには、大戸川ダムから補給する 水位が低下しているときは、通常は-20cmに維持するために大戸川ダムから補給する | 意見書 意見書 意見書 円卓会議 円卓会議 |
| 2)-4 大戸川ダムからの振り替え補給による自然環境への影響 | - | - | - | | |
| 洗堰から瀬田川合流点までの減水 | | | | 琵琶湖の自然環境改善のために大戸川ダム周辺の自然環境悪化がなぜ許されるか。 | 意見書 |
| 大戸川下流への影響 | | | | 琵琶湖の自然環境改善のために大戸川ダム周辺の自然環境悪化がなぜ許されるか。 | 意見書 |
| 3) 日吉ダムの利水容量の振替についての検討を行う。 | - | - | | | |
| 3)-1 利水振替の効果と影響 | | | | 環境流量の観点から見ると、三川合流点より下流の利水が確保されても、日吉ダムから三川合流点までの流量が少なくなることにより、桂川の環境を悪化させる恐れがある。さらに、距離的に大きく離れたうえに集水面積も大きく異なるダム間で、例え利水容量が同じであっても、同等の利水機能の振替となるか不明確である。 日吉ダムの利水容量振替のために大戸川ダム周辺の自然環境悪化がなぜ許されるか。 距離的に離れ、集水面積も異なる日吉ダムと大戸川ダムの間で、同等の利水振替ができるか。 日吉ダムの利水を振替補給しても、琵琶湖の水位低下抑制をする補給可能水量が大戸川ダムにあるか。 日吉ダムの利水容量の振替は、集水面積の異なるダムの間で可能か疑問 保津峡の疎通能力が問題、流域での貯留対策等と併せて実施することが必要、桂川の農業用水の確保の3点から疑問 | 意見書 意見書 意見書 意見書 円卓会議 円卓会議 |
| 3)-2 利水振替の代替案の効果と影響 | | | | 日吉ダムの堆砂容量を利水容量へどのようにして振り替えるのか。 保津峡の疎通能力が問題、流域での貯留対策等と併せて実施することが必要、桂川の農業用水の確保の3点から疑問 | 意見書 円卓会議 |
| 4) 貯水池規模の見直し並びに貯水池運用の変更に伴う貯水池周辺やダム下流に与える影響をはじめ、環境等の諸調査を行う。 | - | - | - | | |
| 4)-1 貯水池及び貯水池周辺の環境等の検討(調査、予測、評価、対策の検討) | - | - | - | 大戸川ダムの環境への影響を考慮する必要があることはいうまでもない。 琵琶湖の自然環境改善のために大戸川ダム周辺の自然環境悪化がなぜ許されるか。 日吉ダムの利水容量振替のために大戸川ダム周辺の自然環境悪化がなぜ許されるか。 環境への重大な影響が認められた場合にどのような対応をするのか。 ダムの放水が自然環境に及ぼす影響については、物理的・化学的・生物的等多方面に及ぶと思われるので、自然環境の内容について明らかにして下さい。 大戸川ダムからの放流による琵琶湖の環境改善への効果と大戸川ダムを建設することによって大戸川やその周辺環境に及ぼす影響を対比したとき、大戸川ダム建設の必要性が真に成立するか危惧する内容と受け止めています。 「大戸川ダムは自然環境への影響が大きい」といわれているが、どうい影響が大きいのかを具体的に示していただきたい。 | 意見書 意見書 意見書 意見書 自治体意見 自治体意見 円卓会議 |

大戸川ダム計画に関する調査検討の説明状況

| 項 目 | これまで | 今回 | 次回以降 | 流域委員会・一般住民からの意見 | 記載箇所 |
|--|------|----|------|---|------------|
| 水質 | - | - | - | 水質の悪化はぜひとも避けていただきたい。 | 円卓会議 |
| -1 水温 | | | | | |
| -2 濁度 | | | | | |
| -3 富栄養化 | | | | | |
| 生物の生息・生育環境 | - | - | - | 大戸川は現在連続性がなくなっている。三つに限られたところで魚類は生息をしており、大戸川ダムを機会に漁業組合等と協力して種族の保存と育成にあたってはどうか。 | 円卓会議 |
| -1 重要種 | | | | | |
| -2 その他(上位性・典型性) | | | | | |
| 4)-2 下流河川的环境等の検討(調査、予測、評価、対策の検討) | - | - | - | | |
| 水質 | | | | | |
| 生物の生息・生育環境 | | | | | |
| 5) 土砂移動の連続性を確保する方策の検討を行う。 | - | - | - | | |
| 5)-1 土砂移動の連続性が遮断されることによる影響の検討 | | | | | |
| 5)-2 土砂移動の遮断を緩和(解消)する方策の検討 | | | | 大戸川ダムの堆砂量および具体的な排砂方法を明らかにする。 土砂の連続性を確保するためにどのような具体策を講じるのか。 | 意見書 意見書 |
| 6) 利水について、水需要の精査確認を行う。 | - | - | - | | |
| 6)-1 各利水者の水需要の精査確認 | | | | 大戸川ダムの利水の具体的な目的と利水容量を明らかにする。 | 意見書 |
| 6)-2 水系全体での包括的整理(琵琶湖水位、維持流量、利水安全度、湯水調整等) | | | | | |

「 」は調査検討の完了後の説明。
「 」は調査検討の途上での説明。
「-」はさらに小分類がある調査検討項目。